

令和 7 年度
運営に関する計画
(中間報告)

大阪市立銅座幼稚園
令和 7 年 12 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

地域に開かれた幼稚園として、保護者・地域・幼稚園が連携し、子どもの健全育成に向け、就学前教育に取り組んでいる。

現状として、本園の子どもたちは家庭で大切に育てられ、落ち着いて活動できる子どもが多い。気性が穏やかで優しい幼児が多いが、自分の思いと違ったり、友達と思いがぶつかったりした時に、諦めてしまう姿も見られる。また、身近な環境や事象に進んで関わろうとする幼児がいる一方で、初めての活動に躊躇したり、受け身であったり、遊びが継続しにくかったりする幼児もいる。

そこで、園内や地域の豊かな環境を活用し、本園の特色を生かした教育活動を実践することにより子どもたちの興味・関心・意欲を高めるとともに、「学びの芽生え」を培っていきたいと考える。

地域とのふれあいや幼保小連携活動を積極的に行い、いろいろな人との関わりの中で思いやりの心を育み、小学校教育への円滑な接続を図るようにする。また、集団生活におけるきまりや防災・安全教育については、幼児期からその大切さと必要性に気付いて行動できるように、発達や実態に応じた指導を行い、家庭への啓発を行う。

以上のような内容について保護者・地域の理解を得ながら取り組み、共に子どもたちの成長を支えていくようにしたいと考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

2 中期目標の達成に向けた年度目標**【安全・安心な教育の推進】****学校園の年度目標**

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**学校園の年度目標**

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】**学校園の年度目標**

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立 銅座幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「警備および防災の計画」「安全対策マニュアル」「大規模災害時初期対応マニュアル」に基づき、災害時等に備えた訓練や指導等を実施する ----- 指標 年間指導計画に基づき、実施する マニュアルの見直しを行い、共通理解を図る	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 幼稚園でのきまりの大切さを知らせ、進んで取り組もうとする気持ちを育む ----- 指標 年間指導計画に基づき、毎学期、発達段階に応じた指導を実施する	B
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 一人一人の子どもが思いやりの気持ちをもち、互いのよさを認め合えるような指導を行う ----- 指標 月1回以上、幼児理解についての連絡会を行う 個別の指導計画、個別の支援計画を立て、学期ごとに見直し、教職員間で共有しながら指導を実施する	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①「警備および防災の計画」「安全対策マニュアル」「大規模災害時初期対応マニュアル」に基づき、年間計画を立てて訓練や防犯指導を実施した。（火災4回、不審者対応1回、防犯指導1回、地震3回 計9回）その都度、子どもの実態や発達段階に合わせ、避難の仕方や避難経路、職員体制をこまめに話し合い実施することで、子どもたちは様々な避難の仕方を知ったり再確認したりしながら、落ち着いて参加することができた。また、教職員間の共通理解と連携の強化、安全意識の向上にもつながった。訓練後には、降園連絡や写真、ホームページを活用し、訓練の様子や子どもの成長を知らせることで、園での取り組みを伝えるようにした。 7月終業式には、区役所と連携した防犯指導を行い、専門的な意見とともに、夏休みの過ごし方を保護者へ啓発することができた。	

11月の地震・二次避難訓練では、保護者への引渡し訓練も同時に実施した。訓練をすることで、メール配信の不具合が見つかり、すぐに問題解決につながった。災害発生時の避難の仕方や、連携の取り方を保護者も含めて園全体で共通理解することができた。

- ② 1学期は挨拶、2学期は安全な遊具・用具の使い方について年間計画を立て、子どもの実態に合わせて、指導を行った。挨拶当番を行うことで、自分から挨拶をする喜び、やりとりの楽しさ、気持ちよさを感じ、自信をもって挨拶をすることができた。登園してくる子どもたちも、自然と挨拶を返すことができ、気持ちよく登園することができた。機会を捉え、一緒に挨拶の言葉を考え、意味を知らせることで、子どもは挨拶の意味や言葉に関心をもち、時間や状況に応じた挨拶ができるようになった。

安全な遊具・用具の扱い方について、実際の園庭の遊具や道具の写真を用いて、安全な使い方について改めて子どもたちと考えることで、きまりを守って遊ぼうとする姿につながった。また、掲示物をつくり、園庭に掲示することで、意識して遊ぶことができるようになった。

- ③ 月1回以上、幼児理解についての検討会や連絡会を行い、教職員間で幼児理解を深めることができた。1、2学期に3回、外部より特別支援教育についての専門家による指導を受け、継続して幼児の成長や課題について考え合い、教職員の特別支援教育についての資質向上の機会にすることができた。夏休みに療育先を訪問し、療育での作業内容を知り、その様子を見学した。また、療育先や相談支援員等とケース会議を行い、共通理解を行いながら指導を進めた。結果、幼児の実態を共有し、支援の方法の共通理解、連携を図ることができた。

今後への改善点

- ① 引き続き年間計画をもとに、子どもの実態や発達段階に合わせた訓練を実施し、事前の打ち合わせや反省を丁寧に行っていく。また、保護者と連携した引き渡し訓練を実施することで、園全体で安全・防犯意識を高めていく。
- ② 引き続き年間計画をもとに、幼稚園でのきまりの大切さを子どもの実態や発達段階に合わせて知らせていく。また、1、2学期に行った挨拶や安全な遊具・用具の使い方についても、掲示物等を使って、意識して園生活を過ごすことができるようにしていく。
- ③ 特別支援教育についての専門家の意見や研修等で学んだことを、教職員で共有し合い、同じ方向性で、個に応じた対応や援助を実施していく。また、教職員が一人一人を大切にすることで、子ども自身の思いやりの心や、互いの良さへの気づきにつなげていく。

大阪市立 銅座幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 子どもの心が安定し、主体的に活動できるように環境や援助を工夫する ----- 指標 年3回以上園内研究会を実施する 就学前教育カリキュラムを活用して週案を作成し、環境や援助の工夫について月に2回以上検討し合う。	B
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 子どもの発達段階、興味、季節等に応じて、子どもが自ら心と体を動かし多様な動きを楽しむための環境や援助の在り方について学び合う ----- 指標 就学前教育カリキュラムや幼児期運動指針を参考にし、機会を捉えて視聴覚機器を用いながら、年間計画に基づき、指導を実施する。	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 基礎的生活習慣を身につける保健指導や栽培活動・食育指導を通して、自身の健康や食への関心を高める ----- 指標 子どもの実態に応じた保健指導を実施する。 年間計画に基づき、担任と連携し、食育指導を実施する	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 6月に園内研究会を実施し、各クラスの実態・興味を捉え、環境構成や援助の工夫について検討した。また、各クラスの週案や園内研究会での指導案では、就学前教育カリキュラムを活用したり、普段から教職員同士で環境構成や援助の仕方などについて話をしたりすることで、学びを深めていった。また、今後、園内研究会を実施する予定にしており、子どもが主体的に活動できるように、環境構成や言葉かけの工夫、援助の仕方などについてさらに学びを深めていくようにする。 ② 1学期は、教師や友達と一緒に鬼遊びや縄遊び、固定遊具など様々な運動遊びをする	

中で、体を動かす楽しさを味わった。また、子どもの興味関心に基づき、機会を捉え、運動や遊びに関する動画を見てヒントを得ることで、身近な遊具やそれを組み合わせて、新しい運動遊びを創り出す楽しさを味わった。特にスズランテープつきの新聞ボール遊びでは、投げる、転がすなどの遊びを通して、体の動かし方を工夫したり調整したりしながら自分の力を試すことを楽しむ様子が見られた。

2学期、5歳児は忍者になり、自分の好きな運動遊びの修行を行った。たくさんの人に見てもらい、充実感や達成感を味わい、自信につながった。3、4歳児は、海の探検ごっこやピクニックごっこなど、イメージを膨らませながら、みんなで体を動かす楽しさを味わった。さらに、5歳児の姿に影響を受け、一本歯下駄や一輪車に挑戦するようになった。また、いつでも運動遊びが楽しめるよう遊具や用具を用意しておくことで、異年齢でのつなひきやリレーを楽しむ姿が見られた。5歳児がルールや人数合わせの方法、その必要性を伝え、異年齢で交流することは、互いの良さを認め合い、憧れやいたわりの気持ちをもつことにつながった。

- ③毎月の保健指導では季節や行事に合わせて基本的な生活習慣を中心に、手洗いうがい、けがの手当てなどについて指導を行った。毎日の幼稚園生活の中でその都度子どもたちに声をかけ、教師と一緒に実践することで基本的な生活習慣が身についてきている。また、けがの手当てでは受傷部位を洗浄してから来室する幼児の姿が見られるようになり、指導の効果が現れている。

食育活動では、栽培活動を中心に実施した。家族栽培では、自分の野菜が実るのを心待ちにしながら保護者と毎日の水やりや追肥を行い、野菜の生長過程を見守り収穫を喜ぶ姿が見られた。また、収穫した野菜がお弁当に入っていることを友達や教師に見せて、自分の育てたものを食べる喜びを味わっていた。食育指導では実物の野菜を活用し、旬の野菜について伝え、切り方によって野菜の断面が違うことを気付かせて、食への関心を高めるように指導した。さらに、幼稚園で栽培している野菜のクイズを掲示したり、「野菜たべたよカード」を保護者の方と記入したりして、食育への興味・関心につながるよう働きかけた。野菜の栽培収穫活動や、お弁当の様子、保健指導の様子などを写真や動画で掲示し、園での食育活動の内容を保護者に啓発した。

今後への改善点

- ① 教員同士が保育を見合い、刺激を受け合えるよう今後、各クラスでの園内研修会を計画的に実施し、教職員の学びを深めていく。
- ②引き続き、機会を捉えた ICT 教材の活用をし、発達段階に応じた遊びの保障と提案が行えるように努める。
- ③引き続き、基本的な生活習慣を身につける保健指導を行うとともに栽培活動や食育指導を進めていく。また、保護者啓発として写真掲示とともに積極的にホームページを活用する。

大阪市立 銅座幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 子どもが地域への親しみをもてるように、南大江小学校や地域の人との交流・連携活動を進める。その中で、互いの教育内容の理解を深め、小学校への円滑な接続を図ったり、地域に根ざした教育活動を実施したりする。	B
指標 年間計画に基づき、事前事後の打ち合わせも含め、連携活動を実施する	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①毎月、地域の子育て応援団と連携したふれあいデーを実施している。子どもたちが、季節やその時の興味や関心に合わせた歌やダンスを披露したり、一緒に遊んだりすることで、地域の方や未就園児との関わりを楽しみ、親しみの気持ちへとつながっている。 5月11月、5歳児が南大江小学校を訪問し、授業の様子を見学したり、小学生と交流させてもらったりする機会を設けた。小学生と関わる中で、小学校生活への憧れの気持ちを持ち、進学への期待につながった。また夏休みを活用し、幼稚園の取り組み写真をまとめて小学校教諭に見ていただいた。小学校教諭からも、感想や取り組み内容の違い、教育のつながりなど、気づいたことを記載して返していただき、幼稚園での教育内容や幼児期の発達について発信することができた。 6月11月、保育所や府聴覚支援学校と交流をもった。幼稚園に来園してもらい、季節ならではの遊びや体操、仲良し遊びなどを一緒に活動することで、いろいろな人が自分の周りにいることを感じることもできた。また、3、4歳児も挨拶をしたり園庭での遊びに参加したりと、関わりがもてる機会となった。	
今後への改善点	
①引き続き、地域の小学校をはじめ、諸学校園所との連携を図り、子ども自身が地域の一員であることを感じられる取り組みを行っていく。また、進学・進級への期待を高められるよう、丁寧な引継ぎとともに円滑な接続を図り、地域に根ざした教育活動の実施に努める。	